

筑後国の太宰府天満宮領と菊池氏

本紙昨年10月号では、南北朝時代の天満宮留守職（天満宮の現地でのトップ）大鳥居氏と今川了俊の関係を紹介しました。続いて今回は、室町時代の大鳥居氏と、肥後国（現・熊本県）・筑後国（現・福岡県南部）の守護（国ごとの統治担当者）を務めた菊池氏との関係を紹介していきます。近年、菊池氏は肥後北部と筑後南部にまたがる守護として再評価されています。天満宮関連の中文書からは、筑後国の天満宮領を舞台とした、菊池氏と大鳥居氏の関係をうかがうことができます。



ます。当時、菊池氏は筑後国内において、新たに九州探題（室町幕府の九州統括担当者）となった渋川氏を相手に戦闘状態となっていました。右に挙げた武朝の命令は、そうした混乱に対応したものと思われまふ。この時点で菊池氏が正式な筑後守護であったと断定できる材料はないものの、菊池氏と天満宮との関係が形成されつつあったことがうかがえます。

ところで、50年ほど後の文安年間（1444～1494年）には、もともと大鳥居氏の領地であった筑後国山門郡得飯莊（現・みやま市高田町飯江）の一部が、菊池氏の有力家臣であった阿佐古氏の領地となりました。この頃には、菊池氏の筑後への影響力と、大鳥居氏や天満宮との関係がさらに深まっていたと推定できるでしょう。一見すると太宰府と関係ないように見える室町時代の菊池氏ですが、莊園を通じて、太宰府とつながっていたのです。